

# 第 62 回未来医療セミナー

2011.4.20 18:00~19:00

大阪大学医学部講義棟 C 講堂

## 制御性T細胞による免疫応答制御

WP I 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学

坂口 志文

正常個体中に存在する  $\text{Foxp3}^+\text{CD25}^+\text{CD4}^+$  制御性 T 細胞は、免疫自己寛容の維持、免疫恒常性の維持に枢要であり、その量的・質的異常は、様々な自己免疫疾患／炎症性疾患の直接的原因となる。例えば、ヒトの  $\text{Foxp3}$  遺伝子異常では、高頻度に自己免疫病、炎症性腸炎のみならず、重篤なアレルギーを発症する。従って、内在性制御性 T 細胞を用いて、様々な免疫疾患の予防・治療が可能である。また、制御性 T 細胞の強化により、移植臓器に対する長期の移植免疫寛容を誘導できる。一方、制御性 T 細胞の除去あるいは機能操作により、有効な腫瘍免疫応答を惹起できる。本講演では、制御性 T 細胞による病的、生理的免疫応答制御について議論する。



主催：未来医療交流会

後援：文部科学省橋渡し研究支援推進プログラム

大阪大学「TR 実践のための戦略的高機能拠点整備」

大阪大学医学部附属病院未来医療センター

大阪大学臨床医工学融合研究教育センター

連絡先：未来医療交流会（大阪大学医学部附属病院未来医療センター内）

Tel: 06-6879-6557, 6551, Fax: 06-6879-6538

E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

<http://www.hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp/>

MTR